雑学書庫 知識の記録

# 騒がしい期待と静かな変化、アマラの法則（Amara’s Law）

記事のURL

https://www.gklibrarykor.com/ja/article/11191/

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

新しい技術が登場すると、世の中は今にもひっくり返るかのように騒がしくなります。ニュースは口をそろえてその技術が数年ですべてを変えると伝え、投資資金が集まり、誰もが関連事業に飛び込みます。ところが数年たっても生活が思ったほど変わらないと、人々はすぐに失望し、その技術を忘れてしまいます。 このおなじみの光景を一文にまとめた言葉が「アマラの法則（Amara’s Law）」です。アマラの法則とは、簡単に言えば、人は新しい技術の効果を短い期間では大きく見すぎ、長い期間では小さく見すぎる傾向があるという格言を意味します。最初の期待はふくらまされ、実際に世界を大きく変える長い変化は過小評価されるということです。 本記事では、アマラの法則がどこから生まれたのか、なぜこうした錯覚が起こるのか、歴史の中でこの法則が当てはまった事例、そして新しい技術を落ち着いて見つめる方法まで、順に見ていきます。 技術の未来を見通すときに陥りやすい落とし穴 未来学者ロイ・アマラのひと言 この法則の名前は、アメリカの未来学者ロイ・アマラ（Roy Amara）に由来します。(1) 未来を研究した人ロイ・アマラはスタンフォード研究所（SRI）で働き、その後、未来を研究する機関である未来研究所（Institute for the Future）の所長を務めました。彼は、技術と社会がこれからどう変わるかを予測する方法を長年研究